

⑨東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における TSM（交通システムマネジメント）の対応について

受賞機関 東日本高速道路株式会社 関東支社

キーワード TSM（交通システムマネジメント）、
東京2020大会、交通状況に応じた車線規制

全建賞審査委員会の評価ポイント

首都圏の高速道路において本線料金所の通行制限や交通状況に応じたIC入口閉鎖等の取組。東京五輪の選手輸送という重要かつ未体験の課題に的確に対応した取組であり、公共交通機関利用への呼びかけや各機関との連携により、TSM（交通システムマネジメント）を実践して円滑な交通状況の維持を実現した点が評価された。

1. はじめに

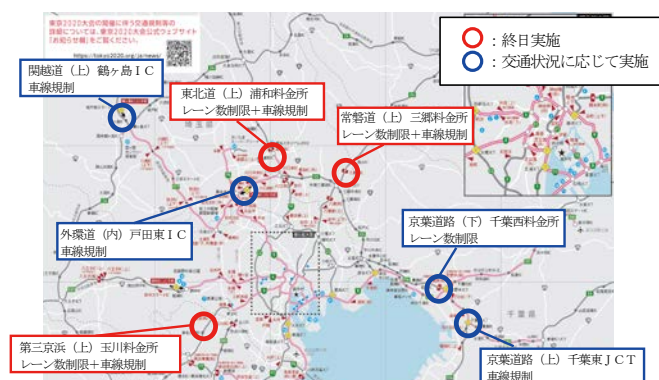
令和3年7月から9月にかけて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）が、首都圏の各会場において開催された。

開催に伴い、東京2020組織委員会、警視庁、警察庁、埼玉・千葉・神奈川各県警察と協力のうえTSM（交通システムマネジメント）を実施し、大会関係車両の円滑な輸送を確保した。

2. 事業の概要

TSMは、TDM（交通需要マネジメント）と組み合わせる実施される道路交通の混雑緩和のための取組であり、道路の混雑が想定される箇所において通行制限を行い、対象地域へ流入する車両を減少させることで、円滑な交通状況を保つ取組である。

今大会における弊社の具体的な取組は、東北道浦和、常磐道三郷及び第三京浜道路玉川の各本線料金所においては終日レーン数を制限し、東京外環道戸田東IC付近及び関越道鶴ヶ島IC付近等においては交通状況に応じた車線規制等を実施した。



TSMによる交通規制位置図
(NEXCO東日本実施箇所のみ)

3. 事業の成果

TSM実施期間中の交通状況は下図に示すとおりであり、機動的な交通対策を実施した結果、関係者輸送ルートの円滑な交通状況を維持できた。

また、期間中は道路管制センターに対策本部を設置し、交通監視システムや情報共有システムを用いて迅速な状況把握・情報共有に努めた。関東地方への台風8号・10号の接近時には、関係機関と調整し、三郷本線料金所の車線規制を解除するなど臨機な対応を行い、大きなトラブルは無く期間中のTSMを遂行した。



4. おわりに

期間を通じ、TSMの目的を達成し、東京2020大会の円滑な運営に貢献することが出来た。一方、交通規制に伴う連日の渋滞によりお客さまにはご迷惑をおかけした。本取組にご協力いただいた皆様には厚くお礼を申し上げる。

今回の貴重な経験を大会中のみの取組として終わらせずに、今後の更なる快適・便利な高速道路の実現に活かすことが出来るよう努めていきたい。